

# 室町水墨画と五山文学

A5判・320頁・定価 6,300円(税5%込)

ISBN978-4-7842-1607-9

雪舟筆 摘星楼図 サントリー美術館蔵



室町時代中期の画僧である「岳翁」は、ながらく伝歴不明の画師であった。昭和二年に「蔵丘」という名を持つことが判明したのち、田中一松氏により、周文の弟子であることを示す同時代史料とともに多くの無落款の作品が紹介されている。

本書ではまず、岳翁と東福寺僧了庵桂悟の関係を手がかりに、詩画軸制作のありようを探り、雪舟と関連づけることで、周文の実像に迫ることを試みる。さらに禅僧の文人的営為を反映するものとして、周文筆と伝えられる詩画軸や煎茶図様水墨画について考察。関連作品を再検討することにより、室町時代の詩画軸における詩と絵画の関係、禅林での詩画軸の制作行程、禅僧の文人意識の絵画への反映を論じ、詩文僧による〈詩画軸制作システム〉を解明していく。

岳翁蔵丘筆 月夜山水図 佐野美術館蔵



## 内容目次

### ◆第一部◆

#### 序論 室町水墨画の世界

—ある山水図の場合—

- 第一節 〈詩画軸〉というもの
- 第二節 岳翁蔵丘筆 山水図(個人蔵)の賛と画
- 第三節 田中一松氏の論文について

#### 第一章 岳翁

—了庵桂悟との関わりにみる

周文派詩画軸制作の様相

- 第一節 伝歴に関わること
- 第二節 作品について考察する
- 第三節 史料類から判ること

#### 第二章 岳翁画の賛と画題の検討

- 第一節 山水図
- 第二節 道釈人物画

#### 第三章 雪舟と岳翁—「周文」の記憶—

- 第一節 文明一八年(一四六八)、堺と周防
- 第二節 拙宗・雪舟と岳翁の作品を比較する
- 第三節 禅宗社会と画僧

### ◆第二部◆

#### 第一章 宝徳二年(一四五〇)の

詩画軸制作システム

—伝周文筆「沙鷗図」(鹿苑寺蔵)をめぐる—

- 第一節 伝周文筆「沙鷗図」について
- 第二節 「沙鷗図」周辺の人間関係
- 第三節 「沙鷗図」における詩の言葉

#### 第二章 室町水墨画の「煎茶」

—文人図様をめぐる—

- 第一節 清雅の道—山水・詩歌管弦・茶—
- 第二節 万里集九の見た幻影—山水図巻と煎茶の童子—
- 盧全像と蘇軾像をめぐる
- 文人茶の図様—「琴棋書画図」を中心に—

じょういち まりこ… 1964年生。九州大学を卒業後、毛利博物館学芸員を経て、大阪大学大学院博士後期課程修了(東洋・日本美術史専攻)。博士(文学)。現在、京都光華女子大学・立命館大学非常勤講師。  
主要論文に、「岳翁—了庵桂悟との関わりにみる周文派詩画軸制作の様相」(『フィロカリヤ』第23号,2006年)「雪舟と岳翁—周文の記憶」(『天開圖畫』第7号,山口県立美術館,2008年)、「伝周文筆 沙鷗図」(『國華』第1437号,2008年)など。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723  
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

| 注文票   |                                                                                                         | 発行: 思文閣出版  |        | (京都 取引コード 3402) |                       |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|--------|-----------------|-----------------------|
| 冊数    | 冊                                                                                                       | 室町水墨画と五山文学 |        | 本体6,000円(税別)    | ISBN978-4-7842-1607-9 |
| お名前   |                                                                                                         |            | tel    |                 |                       |
|       |                                                                                                         |            | e-mail |                 |                       |
| ご住所   | 〒                                                                                                       |            |        |                 |                       |
| 送本方法  | <input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい)<br><input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい) |            |        |                 |                       |
| 書店番線印 |                                                                                                         |            |        |                 |                       |

## ※五山禅林宗派図

玉村竹二著

禅宗史研究の第一人者が、永年の研究成果を基に五山禅林の宗派図を体系的にまとめた画期的な一書。

【内容】解題と凡例／宗派綱要（諸源）一中国伝法／五山禅林宗派図（八十一項目）関山派印証系譜／道号検索／法諱（下字）検索／道号・法諱異称対照表

▶B5判・420頁／定価 15,750円

ISBN4-7842-0403-2

## ※禅宗文化史の研究

桜井景雄著

『南禅寺史』『続南禅寺史』でその名を知られた著者の南禅寺および禅宗史に関する論稿をまとめる。寺史篇では永保寺・円光寺史を、制度篇では禅宗主流の成立とその性格、官寺制五山についてなど7篇、人物篇では周佐・古溪・崇伝・素湛等を、文化篇では茶道の源流、梅屋宗香と乗福寺本『陽庵遺稿』についてなど5篇を論じる。

▶A5判・410頁／定価 8,925円

ISBN4-7842-0452-0

## 中世風狂の詩 一休『狂雲集』精説抄

薩木英雄著

五山文学を専門とする著者が、『狂雲集』を通して一休（1394-1481）の文学的人間のデッサンに臨む。後小松天皇、修行時代、一休の風狂など20テーマを設定し、詩篇の一句一句に足をとり、関連する資料をも交えながらその行間を探る。

▶A6判・374頁／定価 5,040円

ISBN4-7842-0676-0

## 禅語辞典

入矢義高監修／古賀英彦編著

禅語録中の難解な語句すべて（約5,500）について、平易なことばで解釈を施した画期的な辞典。中国語学研究の第一人者である入矢義高氏監修のもと、古賀英彦氏が十年の歳月を費やして今ここに完成する。禅宗寺院・茶道家・宗教史研究者必携の書。

▶A5判・600頁／定価 9,975円

ISBN4-7842-0656-6

## 太平記的世界の研究

八木聖弥著

これまでの『太平記』研究は、国文学の本文研究、歴史学の実証認定に偏してきたが、本書では、『太平記』の描く時代を広く文化史的視点から論じ、多様な価値観が結合されたその時代性を浮き彫りにする。【内容】『太平記』とその時代／猿楽能と『太平記』的世界／『太平記』的世界から幽玄の世界へ

▶A5判・290頁／定価 7,140円

ISBN4-7842-1021-0

## ※翁の生成 渡来文化と中世の神々

金賢旭著

翁のかたちをとる神やそれらをめぐる習俗には、異なる文化圏の影響が色濃く見られる。中世の翁信仰の生成過程を諸縁起や史料から読みとること、そこに色濃く反映された韓半島からの渡来文化の姿を見だし、さらに日本芸能のルーツである翁猿楽の成立についても、韓半島のシャーマニズム文化の影響を指摘する。

▶A5判・250頁／定価 5,250円

ISBN978-4-7842-1411-2

## 書道史より見る禅林の墨蹟

中島皓象著

墨蹟の中にこそ「書の芸術性」を発見し、自らも墨蹟作家と自負する著者が、「墨蹟の見なおし」「墨蹟の新発見」に資すべく墨蹟僧ごとにその書風の源流を探り、その歴遊・歴参・参問・嗣席等を明らかにする。

▶A5判・268頁／定価 3,045円

ISBN4-7842-0627-2

## ※近世禅林墨蹟 [全3巻]

黄檗・曹洞編、臨済編一、二

林雪光・鏡島元隆・加藤正俊編

原則として未発表の作品を中心に、近世および近代初頭の黄檗80・曹洞86・臨済292の計458人の禅僧の墨蹟を収録、釈文と禅僧の略伝を付した。墨蹟を通じ、各禅宗の宗風・歴史を知り得る好書。

▶A3判・(各)図版150頁、解説50頁／揃定価 103,950円

## 相国寺蔵 西笑和尚文案 自慶長二年至慶長十二年

伊藤真昭・上田純一・原田正俊・秋宗康子編

豊臣秀吉・徳川家康のブレーンとして寺社政策・外交政策に辣腕を発揮した相国寺中興の祖・西笑承兌の発給した書状の文案をまとめた『西笑和尚文案』全10冊を紙背文書も含め初めて活字化。朝鮮出兵に関する内容や、関ヶ原合戦直後の状況、家康政権下の寺社公事など、当時の政治状況をうかがうことの出来る重要史料。

▶A5判・396頁／定価 7,350円

ISBN978-4-7842-1343-6

## 一休派の結衆と史的展開の研究

矢内一磨著

一休没後も存続した一休派の結衆とその史的展開を解明することで、中世末期の寺院研究史上の欠如を埋める。一休の印可、法嗣否定による法統断絶の危機、門派結衆の軸としての一休塔所での評議、大徳寺復興や在俗信仰者の結衆の問題などをとりあげる。

▶A5判・370頁／定価 8,190円

ISBN978-4-7842-1525-6

## 関山慧玄と初期妙心寺

加藤正俊著

世縁の粘着を嫌い隠逸の生涯を送った妙心寺の開山・関山慧玄は、自らの意志で伝記の手掛かりとなるものは遺さなかった。後世の関山伝や印可状などの諸史料を精密に分析し、初期妙心寺における関山を中心とした諸問題にとりくみ、宗門の密室性に分け入った一書。

▶A5判・390頁／定価 6,825円

ISBN4-7842-1281-7

## 江月宗玩 欠伸稿 訳注 [乾・坤]

芳澤勝弘編著

江月宗玩の語録『欠伸稿』の龍光院蔵自筆本を翻刻。分量的には、影印で刊行されている写本「孤蓬庵本」のほぼ半分だが、「孤蓬庵本」にはない偏頗などを収録する。

【乾】▶A5判・644頁／定価 9,975円

ISBN978-4-7842-1462-4

【坤】▶A5判・774頁／定価 9,975円

ISBN978-4-7842-1515-7

## 天龍寺文書の研究

原田正俊編

京都嵯峨の名刹・天龍寺の古文書は、仏教史・寺院史のみならず多数の朝廷・幕府発給の文書、荘園関係文書を含み、政治史・社会経済史研究に必須の文書群である。第一部には鎌倉時代～慶長5年の中世天龍寺関係文書および関連諸塔頭文書を翻刻・掲載、第二部には研究編として解説・論考を収録する。

▶A5判・716頁／定価 14,700円

ISBN978-4-7842-1571-3

## 鹿王院文書の研究

鹿王院文書研究会編

足利義満を開基、春屋妙葩を開山とする臨済宗寺院、鹿王院所蔵の中世文書一五山禅林と幕府・朝廷との関係や京中及び諸国に展開する所領・荘園に関する貴重史料など一約900点を収録。第1部（文書篇）では編年で釈文を、第2部（解説・研究篇）には文書全体の解題他、研究成果を収録。

▶A5判・530頁／定価 13,650円

ISBN4-7842-1037-7

## ※相国寺史料 [全10巻・別巻1]

相国寺史料編纂委員会編

足利家の菩提寺として創建、五山の第二位に叙され、明貿易の交渉にもあつた相国寺。本史料集は「相国考記」（永徳2年～慶長14年）と小島文鼎師が本山及び塔頭所蔵の文書・史料から抄録・編纂した「相国寺史稿」全40冊（慶長10年～慶長3年）よりなり、別巻に小島師の「万年山聯芳録」を附載した。

▶A5判・平均550頁／揃定価 164,850円

## ※東福寺誌

白石虎月編

鎌倉時代、九条道家の発願によって開創され、円爾を開山に禅寺として再建以来、東福寺は日本の禅宗の歴史に大きな役割を果たしてきた。本書は、東福寺の末寺明光寺の住職白石虎月師により出版された昭和5年の復刻版。開創以来の歴史を明らかにすると共に、中世・近世禅宗史や禅宗関係文化財を知る上で貴重な編年史料集である。

▶菊判・1250頁／定価 12,600円

ISBN4-7842-0121-1

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。  
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。